

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 2 年 9 月 24 日 (2020.9.24)

【公開番号】特開 2018-186873 (P2018-186873A)

【公開日】平成 30 年 11 月 29 日 (2018.11.29)

【年通号数】公開・登録公報 2018-046

【出願番号】特願 2017-89225 (P2017-89225)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 8 月 7 日 (2020.8.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技を行うことが可能な遊技機であって、  
受信したコマンドにもとづいて制御を行う制御手段と、  
コマンドを構成する複数のコマンドデータを受信して、第 1 格納領域に格納するコマンド受信手段と、を備え、

受信したコマンドが最初に格納される第 1 格納領域と、  
受信したコマンドが一時格納される第 2 格納領域と、  
受信したコマンドが最終的に格納される第 3 格納領域と、を備え、  
前記制御手段は、

前記コマンド受信手段がコマンドデータを受信するごとに発生する受信割込が所定期間発生したことにもとづいて、前記第 1 格納領域に格納されているコマンドデータを読み出して前記第 2 格納領域に格納する第 1 格納制御手段と、

所定期間ごとに発生するタイマ割込にもとづいて、前記第 2 格納領域に格納されているコマンドデータを読み出して前記第 3 格納領域に格納する第 2 格納制御手段と、

前記第 3 格納領域に格納されているコマンドデータを解析する解析手段と、を含み、  
前記第 1 格納制御手段は、コマンドデータを前記第 2 格納領域に格納する場合、前記第 2 格納領域に格納されているコマンドデータの容量が制限値に達しているか否かを判定し、  
該判定結果に応じた処理を実行し、

前記第 2 格納制御手段は、前記第 2 格納領域から読み出したコマンドデータの種類の判定し、該判定結果にもとづいて、該コマンドデータを前記第 3 格納領域におけるコマンドデータの種類の種類に応じた領域に格納する、

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 1】

(手段 A) 本発明による遊技機は、

遊技を行うことが可能な遊技機であって、  
受信したコマンドにもとづいて制御を行う制御手段と、  
コマンドを構成する複数のコマンドデータを受信して、第 1 格納領域に格納するコマンド受信手段と、を備え、  
受信したコマンドが最初に格納される第 1 格納領域と、  
受信したコマンドが一時格納される第 2 格納領域と、  
受信したコマンドが最終的に格納される第 3 格納領域と、を備え、  
前記制御手段は、  
前記コマンド受信手段がコマンドデータを受信するごとに発生する受信割込が所定回数発生したことにともづいて、前記第 1 格納領域に格納されているコマンドデータを読み出して前記第 2 格納領域に格納する第 1 格納制御手段と、  
所定期間ごとに発生するタイマ割込にもとづいて、前記第 2 格納領域に格納されているコマンドデータを読み出して前記第 3 格納領域に格納する第 2 格納制御手段と、  
前記第 3 格納領域に格納されているコマンドデータを解析する解析手段と、を含み、  
前記第 1 格納制御手段は、コマンドデータを前記第 2 格納領域に格納する場合、前記第 2 格納領域に格納されているコマンドデータの容量が制限値に達しているか否かを判定し、該判定結果に応じた処理を実行し、  
前記第 2 格納制御手段は、前記第 2 格納領域から読み出したコマンドデータの種類を判定し、該判定結果にもとづいて、該コマンドデータを前記第 3 格納領域におけるコマンドデータの種類の種類に応じた領域に格納する、  
ことを特徴とする。

(手段 1) 他の遊技機は、遊技を行うことが可能な遊技機であって、受信したコマンド（例えば、演出制御コマンド）にもとづいて制御を行う制御手段（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ 100）と、受信したコマンドが最初に格納される第 1 格納領域（例えば、シリアル通信回路 115 が備える受信レジスタ）と、受信したコマンドが一時格納される第 2 格納領域（例えば、内蔵 RAM 112 に設けられる受け渡し用バッファ）と、受信したコマンドが最終的に格納される第 3 格納領域（例えば、外付けの SDRAM 116 に設けられる解析用バッファ）とを備え、制御手段は、コマンドを受信するごとに発生する受信割込（例えば、シリアル受信割込）にもとづいて、第 1 格納領域に格納されているコマンドを読み出して第 2 格納領域に格納する第 1 格納制御手段（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ 100 におけるステップ S721～S723 を実行する部分）と、所定期間（例えば、1ms）ごとに発生するタイマ割込にもとづいて、第 2 格納領域に格納されているコマンドを読み出して第 3 格納領域に格納する第 2 格納制御手段（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ 100 におけるステップ S741～S748 を実行する部分）と、第 3 格納領域に格納されているコマンドを解析する解析手段（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ 100 におけるステップ S704 を実行する部分）とを含み、第 3 格納領域は、コマンドの上位データを格納する第 1 領域（例えば、解析用バッファ（上位））と、コマンドの下位データを格納する第 2 領域（例えば、解析用バッファ（下位））とを含み、第 1 格納制御手段は、第 1 格納領域から読み出したコマンドをそのまま第 2 格納領域に格納し（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ 100 は、ステップ S745 を実行する）、第 2 格納制御手段は、第 2 格納領域から読み出したコマンドの上位データを第 1 領域に格納し、第 2 格納領域から読み出したコマンドの下位データを第 2 領域に格納する（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ 100 は、ステップ S746 を実行する）ことを特徴とする。そのような構成によれば、大量のコマンドを受信した場合にコマンドの取りこぼしを軽減することができる。また、受信割込発生時の処理負担を軽減することができる、コマンドの取りこぼしの防止に繋げることができる。